

ふもと小学校だより

こだま いさお
文責：児玉伊左夫

児童のみんな、保護者・地域の皆さん、先生方にも伝えたい。そしてお聞きしたい。そんな思いをこめて。

初夏のこだま便

(R1第3号)

令和元年5月17日(金)

あつ

れんしゅう ほんかくてき

暑くなってきました。うんどうかい練習も本格的に。えいよう+すいみん。

10連休後の学校はいい感じで再開。運動会練習にも力がはいってきました。昔に比べて暑い日が続きます。子どもたちの体調管理にはくれぐれもよろしくお願ひします。

睡眠と休養、そして栄養、テレビやゲームなどのメディア時間もひかえめにしながら、帰宅後はゆっくり休む時間を確保してほしいと思います。

少し前になりますが、4/19 PTA総会も大変お世話になりました。2週間、子どもたち、先生方、保護者や地域の皆様方と接してみて感じたことをご挨拶で申し上げました。

本校の子どもたちは、豊かな自然、誇り高い歴史や文化、産業、そして学校愛あふれる地域のひとつに囲まれ、明るく素直に育っていると感じています。

地域の皆様、学校の応援団、ありがとうございます。

着任してまだ1ヶ月足らずではあります
が、各方面から、たくさんの方々が学校の
ために、お力添えいただいているのだと感じています。

どうぞこうして、登下校いつしょに連れ添っていただきたり、図書室のお世話をしていただきたり、通学路の除草や見守りボランティア、また府本マルシェをはじめとした学校行事へのご協力などいっぱいあります。

まだまだ私の知らないところで、ご尽力いただいているのではないかとご推察いたします。ほんとうにありがとうございます。



夕日に映えるトキワマンサク



5/26運動会に向けて～練習のひとこま。入場行進の様子。

5月7日、快晴のもと、楽しい茶摘み会が行われました。地域・保護者の皆様、ありがとうございます。



20名を超える地域や保護者の方々が応援に

5/16(木)荒尾市長様への新茶贈呈に児童会代表が出向きました。

各ご家庭にも少しずつですが、パックでおわけしました。いかがだったでしょうか。新茶の香り。

郷土の詩人坂村真民先生に学ぶ②

前回、真民先生は自分がもうダメだと思う時、いつも3つの言葉に励まされ支えられてきたことをお伝えしましたが、まずは有名な「**念ずれば花ひらく**」(胴体の部分)を紹介します。

この詩は、幼子5人を抱え、夫を亡くした母親の苦闘の中から生まれた言葉とのこと。

念ずれば花ひらく 苦しいとき 母がいつも口にしていた このことばを
わたしもいつのころからか となえるようになった そうしてそのたび
わたしの花がふしげと ひとつひとつ ひらいていった

自分を元気にさせる言葉、パワーフレーズ。座右の銘ともいいますが、皆さんにはありますか?



2新聞社に掲載していただきました。